

特別講演 2

「患者さんのライフスタイルに合わせた糖尿病治療戦略」

横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学 教授
寺内 康夫 先生

世界的に糖尿病罹患が増え続け、日本の糖尿病患者は 1,000 万人になった。糖尿病患者のうち約 70%が 60 歳以上であり、まず高齢者の糖尿病治療の現状と課題について考えてみたい。日本人の糖尿病患者の肥満度が上昇しつつあり、肥満合併糖尿病患者の食事療法は重要な意味を持つ。ただ、糖尿病患者は他の生活習慣病患者と比較して、ストレスを多く抱えており、指導内容に注意を払う必要がある。患者さんのやる気を高める工夫について考えてみたい。

糖尿病薬物療法は急速に進化しているが、昔からある薬剤の中に、今も第一選択薬で使われることが多いビグアイド薬がある。その適正使用について考えてみたい。優れた薬剤であっても、きちんと内服できないと血糖改善効果が低下するのは自明であるが、その影響は中長期的に及ぶ。こうしたアドヒアランス低下に際して、医療者側に問題がある場合が存在する。どのような状況で起こりえるのか、その対策も含めて考えてみたい。

最近、経口血糖降下薬に配合剤が加わるようになった。様々な組み合わせがあるが、ビグアイド薬と DPP-4 阻害薬の配合剤はアドヒアランスを高めるとともに、経済的負担の軽減につながると期待されている。その有効活用法について考えてみたい。

以上、最新の研究成果を紹介しつつ、患者さんのライフスタイルに合わせた糖尿病治療戦略について議論したい。